

経営比較分析表（令和4年度決算）

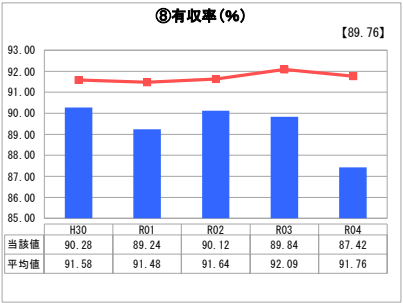
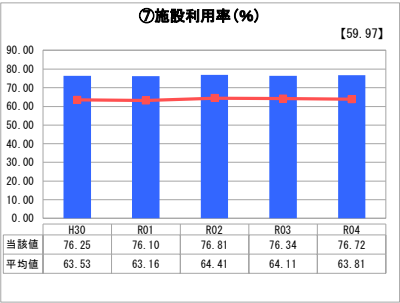
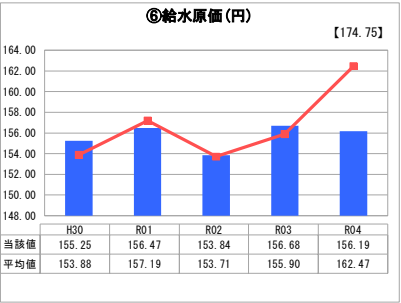
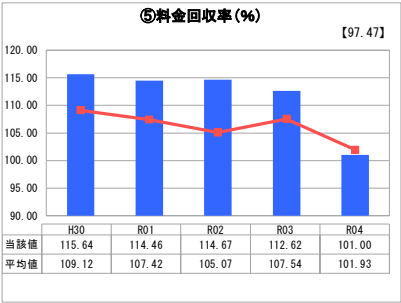
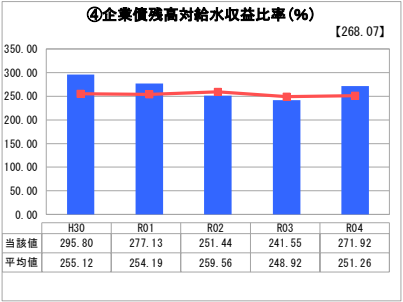
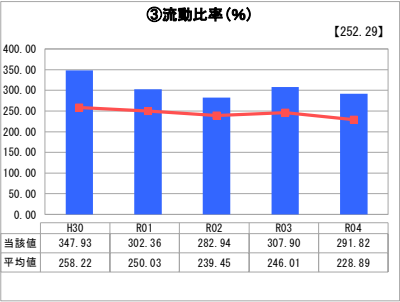
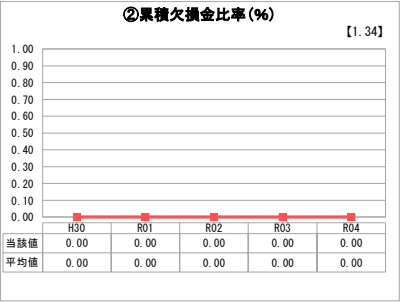
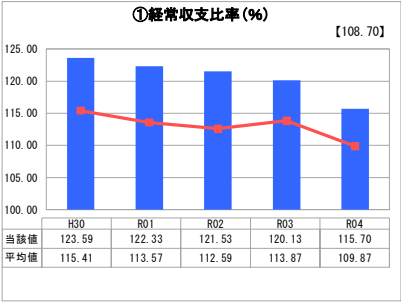
栃木県 宇都宮市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡あたり家産料金(円)	
-	77.42	97.49	2,860	

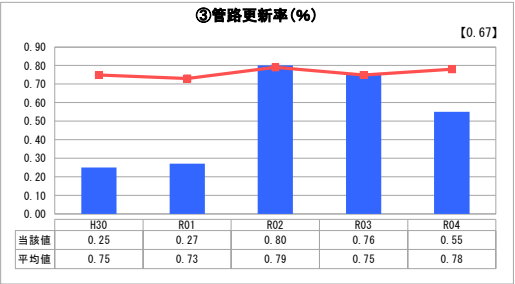
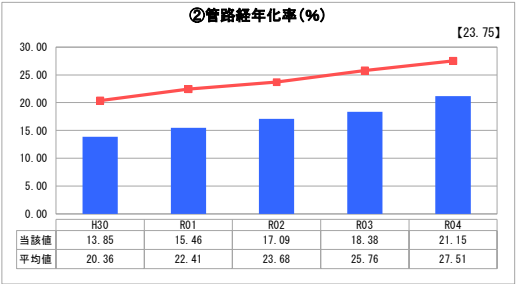
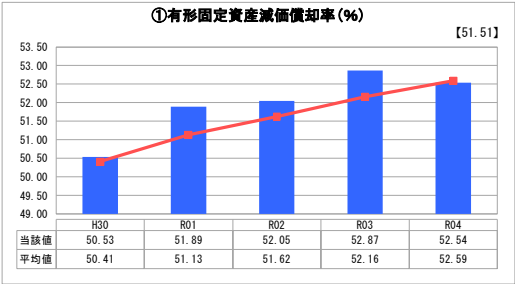
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
517,497	416.85	1,241.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
502,969	355.18	1,416.10

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」、「⑤料金回収率」は、100%を上回っており、給水に係る費用を経常的な収益で賄えている状況にあるが、減少傾向にある。

「④企業債残高対給水収益比率」は、企業債の計画的抑制を図ってきたことにより、令和4年度は増加したものの、全体として減少傾向にある。

「⑥給水原価」、「⑦施設利用率」は横ばいで推移している。

「⑧有収率」は、年度により増減はあるが、令和4年度は、漏水量や水質を保持するための事業用水量の増加に伴い前年度比で減少した。

類似団体と比較すると、「①経常収支比率」が100%を上回る中、多くの指標で類似団体より良好な数値となっており、相対的に健全な経営状態にある。

なお、令和4年度は、水道基本料金の免除を実施したことに伴い、対前年度比で「①経常収支比率」「⑤料金回収率」が減少するとともに、「④企業債残高対給水収益比率」が上昇している。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、耐震化整備事業などによる施設の更新に伴い、令和4年度は減少となったが、「②管路経年化率」と同様、老朽化の進行により、上昇傾向にある。

「②管路経年化率」は、法定耐用年数を超えた管路の増加に伴い、上昇傾向にある。

「③管路更新率」は、老朽化対策の推進に伴い、令和2年度に上昇しているが、令和4年度は、更新対象の距離が減少したことで、前年度より低くなった。

類似団体と比較すると、「①有形固定資産減価償却率」が、令和4年度に類似団体より低くなったほか、管路経年化率も類似団体より低く推移しており、計画的に老朽化対策を実施している状況にある。

全体総括

類似都市と比べ相対的に健全な経営状態にあるが、今後、施設の老朽化による更新需要や耐震化、さらには災害対策、脱炭素化に向けた取組など、計画的に施設の更新を実施していく必要がある。並行して、経常収支比率や料金回収率の向上を図り、収益性を高めていく必要がある。

そのため、DXの推進や施設の効率的な維持管理などによる事業の効率化を図り、給水費用を抑制し、収益性を高めることで、より一層の経営の健全化・効率化を図っていく。